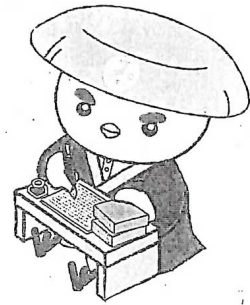


8月7日開幕



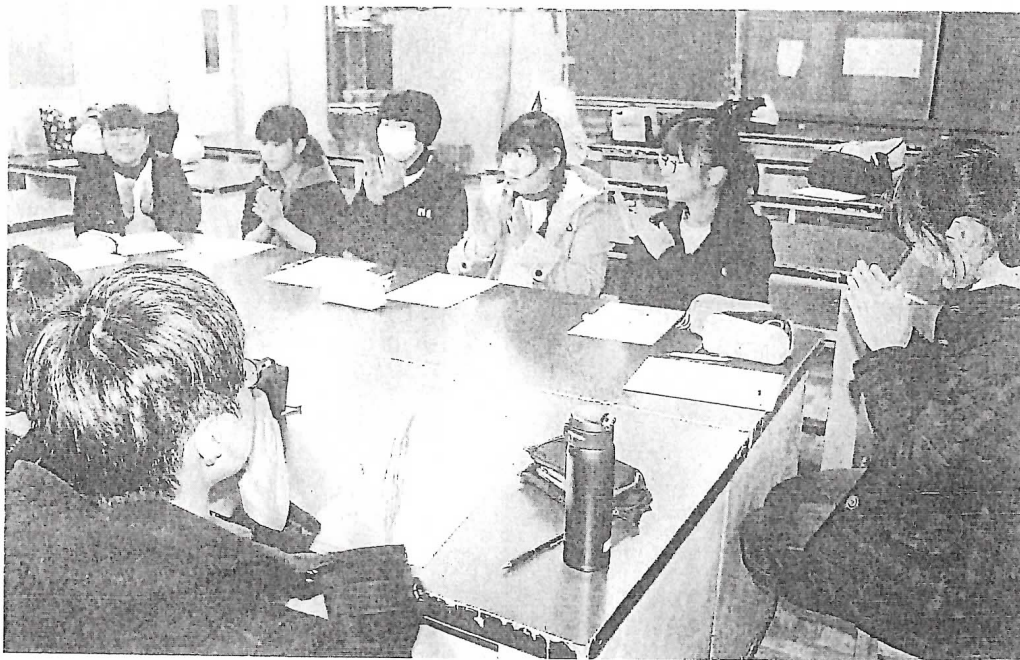
水曜日の放課後、上田高校文芸班の班員たちが活動場所の教室に集まる。班員による句会を開いた昨年12月は、机を囲んだ1、2年生10人余が自分たちが詠んだ俳句への感想を順番に述べていった。

「作品に対する評価を自由に言い合える雰囲気があります」と、班長の柳沢祐奈さん(17)。作品への感想や評価を語った仲間にはみんなで拍手を送るなど、和やかな雰囲気も印象的だ。週1回の活動が数年前から定着したのに伴い、読者に響く作品を強く意識するようになってきた。

本年度の県高校文芸コンクールは、5部門のうち散文と詩、短歌、文芸部誌の4部門で最優秀賞を受けた。先輩らの活躍を「すごい」と感じ、大はしゃぎをしたという。

文芸 上田高校文芸班

作品への評価を自由に



俳句を批評し合う上田高校文芸班の班員たち

年1回発行している部誌「松尾文藝」は昨年7月で第76号になった。「読んで楽しいものって何だろう」。そんな自問をしながら毎年10月ごろから内容を練っていく。見栄えが良くなるよう段組みなどにも気を配る。次号に向けて柳沢さんは「班員たちには伸び伸びと作品を書いてほしい」と期待を込める。全国から高校生が集まる8月の信州総文祭を迎えるに当たっ

信州 総文祭へGO!

開催部門紹介

ては、豊かな自然の中で育まれた自分たちの感性を意識する。「都会とは違うものを感じてほしい」と抱負を語った。

信州総文祭の文芸の出場校は次の通り。▽文芸部誌 上田▽散文 長野▽詩 松本蟻ヶ崎▽短歌 伊那西▽俳句 飯田女子

感動を全国に届ける



文芸部門生徒部会部長・長野2年・渋谷佑果さん(17)「みやぎ総文」での体験と、プレ大会などで得た仲間で「信州総文祭」を作り上げようと思います。みやぎの実行委員の皆さんは私たちの質問に的確に答えてくれましたが、その難しさをプレ大会で実感しました。大会の大きさも分かり不安がありますが、長野県代表の意識で運営に当たるつもりです。みやぎでの感動をそれ以上の形にして全国に届けるのが目標です。